

2019年度近森病院災害訓練報告	坂本明美	3
第8回心臓血管ウエトラボ	廣井利至	4
近森正昭先生を偲んで	近森正幸	5
学会開催報告	和田恵美子	6
学会開催報告	川井和哉	7
近森会グループ2019年MVP		8
101歳、もうすぐ102歳、お元気です	坪井香保里	10
JMDS2019in高知	宮島功	16

www.chikamori.com ● 高知市大川筋一丁目1-16 tel. 088-822-5231  
発行●2019年12月25日 発行者●近森正幸 / 事務局●寺田文彦



## ■ 年頭所感 ■

### 今までの発想にとらわれない自己変革 ～小さなマネジメントを積み重ねアウトカムを出す～

社会医療法人近森会 理事長 近森 正幸

#### はじめに

4年前の2016年4月の診療報酬改定で、ストラクチャー評価から、アウトカム評価が導入され、更には、急激な少子高齢化による人口の減少により、日本の医療、特に高知の地域医療が大きく変わり、右肩上がりから右肩下がり大きく変化する、まさに2016年4月は「時の分水嶺」であったと言える。

近森会グループにも大きな影響が生じ、救急や紹介患者の受入れの促進、人件費削減を含む諸経費の徹底したコストカットや、2017年10月には地域包括ケア病棟34床の開設、昨年4月にはHCU、SCU病棟の再編成などを行わざるを得なくなった。

#### 変化する高知の医療

2018年4月の診療報酬改定では、アウトカム評価が一段と強化され、すべてのステージで重症の患者を数多く集め、早く良くして在宅へ帰すという競争が始まっている。

高知の地域医療は過去30年間、時代と共に少しずつ変化してきたが、病床が全国平均の2倍、療養病床は2.5倍と多く、人口が減少

し、重症の患者に限られることと、地域医療構想の名のもとに、医療費削減にむけた国の圧力が強まり、全国に先駆けて大きな変化が起ころうとしている。

#### 時代の変化を見据えた 近森の対応

そういう時代の変化を予見して、近森会グループは地域医療構想が出てくる10年以上前から、着々とトップダウンで体制を整えてきた。

7カ年計画で近森病院、近森リハ病院、近森オルソリハ病院の全面的な増改築工事を行い、これから20年、30年耐えうるハードを作り上げた。

近森病院は急性期338床という中小病院から、急性期452床、総合心療センターの急性期精神科病床60床を統合し512床の大病院になっている。

これにより救急車の搬入件数は1.5倍、今まで満床でお断りせざるを得なかった紹介や救急による入院患者数は1.4倍、1.6倍になった。救急搬送件数は2017年度は中四国で3番目となり、生命にかかわるメジャーな傷病の入院患者数や手術件数は2016年度から高知県トップになることができた。

ソフト面でも20年前から積極的な地域医療連携をすすめて、重症病棟と一般病棟のスムーズな病棟連携も、ベットコントロールナースにより行なわれている。2003年には栄養サポートチームにより管理栄養士が病棟に出るようになったことで、多職種による本格的な病棟常駐型チーム医療がスタートした。病院や病棟、スタッフの機能を絞り込むことで医療の質を上げ、労働生産性を高め、病院機能を整備してきたし、先生方はじめスタッフみんなの労働環境や、やりがいや飛躍的によくなっている。

#### 組織活性化のために

組織の活性化のために、看護部でも師長、主任に代行、心得制度を導入し若いスタッフを積極的に登用するなど、病棟や外来、各部署ばかりでなく委員会でも若返りを図っている。

昨年2月からは部科長会を診療責任者会議に組織替えを行い、その会では先生方にも病院の運営や経営に参画していただき、その決定事項を合同運営会議で報告、検討し、先生方はじめ全職員に病院の方向性を周知徹底して、みんな

次頁へ続く

## 前頁から続く

で決めたことは確実に実行するボトムアップの体制を作っている。

## 医師の働き方改革への対応

医師の働き方改革では、特に地方の救命救急センターが大きな影響を受けるといわれている。週40時間勤務。週に1回又は月4回は完全に休む。時間外は月80時間以内という原則を守りながら、通

常業務と同じERの時間外、休日勤務は原則交代制とし、時間外は入院患者の急変やER呼出し、緊急手術や処置といった業務に限定し、病棟業務は可能な限り時間内に行い、休日の病棟業務は担当を決め、グループ診療で行う体制をとり、先生方の労働環境の改善に繋げていきたいと考えている。

## 最後に

今までの発想にとらわれず、自己変革を限りなく続ける病院こそが生き残ることができる。近森会グループは毎年、小さなマネジメントを積み重ね、アウトカムを出し続けることで、常に変化し、今まで以上によりよい病院に変わり続けている。

これからも元気に歩いていきますので、どうかよろしく願いいたします。 ちかもり まさゆき

## 看護部

## キラリと光る看護

## 看護師特定行為研修修了看護師の今

## 特定看護師チームを立ち上げ、精力的に頑張っています！

近森病院 看護師特定行為研修 一期生

近森病院 救命救急センター (ER) 看護師 山脇 久男

▼講義中の筆者



▼みんなで推論中の受講生と修了生



2016年度より当院研修センターにおいて看護師特定行為研修が開始されました。その一期生として研修を修了し、現在は救命救急センターERにて勤務しています。

看護ケアの展開においては、患者の状態を正確に把握したうえでケア

を行うことが推奨され、系統的に問診を聴取し必要な身体所見をとり、今患者になにが起きているのかを推論する力が看護師に求められています。看護師特定行為研修で学んだフィジカルアセスメントや病態生理、臨床推論などの知識、技術は、系統的

問診から身体所見をとり医師や他職種と協同してのER救急現場での治療・看護ケアに活かされています。

個々の特定行為研修修了生の活動を拡大していくため2019年11月に特定看護師チームを発足させました。チーム活動として、院内外での臨床推論をふまえた講義、推論のポイントや症状の解説など院内掲示板への掲載、また、DMコーディネーターとして外来から早期に血糖コントロール不良患者に対してアプローチし専門職と連携し入院中の療養指導に活かしていく取り組みを行っています。

また、特定行為ではありませんが、末梢静脈確保困難な患者の増加に対し、静脈穿刺をより侵襲の少ない方法で行うためのエコーガイド下での静脈留置針刺入の取り組みも医師の指導のもと開始しました。2020年度には、こうした取り組みをさらに発展できるよう邁進していきたいと考えています。 やまわき ひさお

## 1月の歳時記

秘書課 泌尿器科秘書

イギリスの野生植物から園芸植物となりました。サクラソウ科、



絵も筆者

## プリムラポリアンサ

中村 周子

常緑多年草で、豊富な花色があり、冬から春の花になっています。学名「Primula (プリムラ)」は、ラテン語の「primos (最初の)」が語源です。花言葉は「early youth (青春のはじめ)」「young love (青春の恋)」、早春に他に先駆けて咲くことにちなんでいます。彩り豊かな可愛い花に癒されます。 なかむら ちかこ



# 命を救う。命をつなぐ。2019年度近森病院災害訓練報告

近森病院 災害対策委員会  
救命救急病棟 看護師 主任 坂本 明美

▼停電時の階段移送には  
多くの人手が必要となる

▼入院のみでなく外来センター  
患者の安全確保も課題に



当院は災害拠点病院として、毎年災害対応訓練を行っています。近年では自然災害や多数傷病者が発生する事件事故などが多く発生しています。10月には大事故を想定とした多数傷病者の受け入れを机上訓練で行いました。通常診療を行っている状況で、多数傷病者を受け入れるためには、災害モードに診療体制を切り替えることが必要となります。多数

の患者の命を救うためには病院全体でどのような対応が必要であるか検討することができました。

また11月30日には南海トラフ地震にて津波発生を想定した災害対応訓練を実施しました。当院は役割が異なる建物が分散しているため、災害対策本部は無線やトランシーバを利用し各建物内の被災状況を把握し必要な情報を発信するなどの本部運

営訓練を実施しました。各建物に関しては、人形などで模擬棟を作成し災害時の初動や本部との情報伝達訓練を行いました。患者の安全を確保し籠城していくため何が必要かの課題も明確になりました。

災害時に命を救う、命をつなぐことのできる近森病院を目指し今後も取り組んでいきたいと思ひます。

さかもと あけみ



## こうち南フェスに参加しました

近森病院 呼吸器内科・感染症内科

部長 石田 正之

▼運転席に筆者

去る2019年11月3日にこうち南フェスにtuk-tukドライバーとして参加しました。

この催しは高知市内で人口減少の著しい長浜、御豊瀬、浦戸地域において、地域の活性化を目的に、同日に3地区でイベントを開催し、来場者に周遊をしてもらおうと企画されました。



各会場の移動手段の一つに、現在高知県にある5台のtuk-tukが、お手伝いをさせていただくこととなりました。他の4台が周遊を担当し、私は長浜会場でミニ乗車体験を担当しました。当日は多くの方に来場いただき、イベントとtuk-tukを楽しんでいただきました。いしだ まさゆき



## 近森病院 クリスマスツリー

毎年恒例のBIGクリスマスツリーが総合受付に飾られました





## 心臓の解剖と心臓血管治療 ～見て触れる～

近森病院 臨床工学部

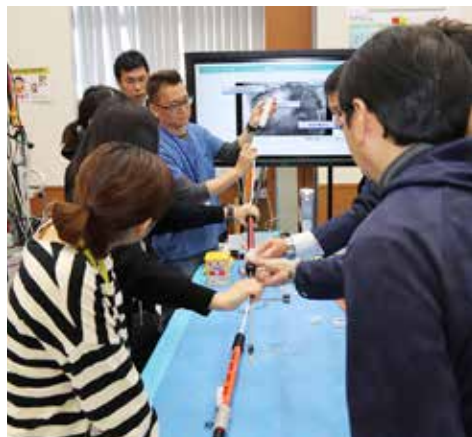
急性期CEチーム 主任 廣井 利至



2005年からはじまった隔年開催の心臓血管ウェットラボも今回で8回目となります。豚の心臓と実際に使われているものと同じ治療器具を用いての実習は注目度が高く、今回も県内外から医師、研修医、学生、看護師、栄養士、検査技師、理学療法士など様々な職種の方々の多数の応募で受講参加者81名、インストラクター・スタッフ含めて総勢163名の大規模な会となりました。

実習の内容は豚の心臓を用いての解剖、心臓病理、PCI・ステントなどのカテーテル治療、刺激伝導系のカテーテルアブレーション、Maze手術、冠動脈バイパス術、人工弁置換術、大動脈ステントグラフト、TAVI(経カテーテル大動脈弁治療)、心臓エコー、IMPELLAなどの全11科目を午前9

▼ TAVI (経カテーテル的大動脈弁留置術)



▼心臓病理などの展示



時からおよそ6時間にわたりみっちり勉強していただきました。

最初に心臓血管外科 池淵先生による手元をスクリーン投影しての豚心臓解剖デモンストレーションからはじまり、各テーブルでの豚心臓解剖、心臓病理など次々と実習を受講するなかで参加者とインストラクターが和気藹々とコミュニケーションをとっている姿が印象的で、疑問に思ったことや質問などにすぐに答えが返ってくることで、より知識や理解を深められることがウェットラボの醍醐味であると感じました。アンケート結果でも同様の回答をいただきましたが、普段は出来ない体験

▼本物の人工弁を用いての弁置換術



や質問ができる機会は大変貴重であり、改良をかさねつつ、今後も続けていきたいと思えます。

今回のウェットラボも、インストラクターの熱意と参加者の学ぶ意欲で会場は熱気につつまれ盛況のうちに終わることができたことをインストラクターやスタッフ、参加者の方々に感謝したいと思います。皆さん本当にありがとうございました。

ひろい としゆき



参加者/院内：80人、院外：83人

## 近森正昭先生を偲んで

11月23日、透析外来部長、臨床工学部部長 近森正昭先生が急逝した。兄弟の気楽さで、いつも正昭、正昭と呼んでいたのでも、ここでも正昭と呼びます。

正昭は、関西医科大学を1977年3月卒業後、1979年4月から東京女子医科大学腎臓病総合医療センターで父 正博とも親交の厚かった、透析療法の創設者の一人で、臨床工学技士の生みの親である、太田和夫先生のもとで外科医員として腎移植や泌尿器、透析の研鑽を積んでいる。

1984年4月に近森病院分院に赴任以来、35年間にわたり血液透析や腹膜透析、エンドトキシン吸着や血漿交換などの治療にあたるばかりでなく、業務の標準化をすすめ、権限移譲し、多職種が自分で判断し介入する完成度の高い透析室のチーム医療を作り上げてくれた。

1992年に近森病院新館が完成、現在の本館C棟7階に透析室を開設したが、外来維持透析がほとんどであった当時と違い、現在は外来透析患者をできるだけ制限し、



高知県中の透析施設から紹介される急性期の入院透析患者が大部分を占めており、近森の透析医療は大きく変わっている。5カ年計画の近森病院増改築工事の際には透析室のみがほとんど直す所がなく、正昭は30年先のあるべき近森の透析医療を考えて透析室を設計してくれていた。

2005年7月には臨床工学部部長も兼務し、時間をかけて日本有数の臨床工学部に育ててくれた。臨床工学技士は高度な機械を扱うことから高い医療の質と専門性が求められている。その為、臨床工学技士を急性期チームや透析チームといったグループに分け、さらには使用する機器も分け、専門領域

を絞り込むことで、高い専門性を維持している。

正昭の部屋の横には書庫があり、その中にある少なくとも2,000冊以上、3,000冊ぐらいの多方面にわたる本をすべて自費で購入し、目を通し、頭に入れており、森羅万象に通じ先見性のある正昭でした。

地域連携やチーム医療の実践の際に理論的な裏打ちをしてくれたのは正昭で、理論と実践がかみ合うことで、近森では「アライアンス」地域医療連携や多職種による「病棟常駐型チーム医療」などの先進的な取組みが行われている。

私の父も本をよく読み、「近森を日本のメイヨウにするんだ」とよく言っていた。正昭も多くの先生方には発想が飛躍しすぎて理解不能の存在だったが、近森を愛し、近森が素晴らしい病院になるよう常に先を見て、行動し続けてくれていた。正昭が灯した希望の火は、正昭を知るみんなの胸に深く刻まれており、消えることはありません。

理事長 近森 正幸

### ハッスル研修医

出身は和歌山県、大学から高知に来て、今年の春から近森病院で働いています。

近森病院で研修医として働き始めてから、早いもので10カ月がたちました。医師として右も左もわからず、また、社会人としても未熟なわたしですが、近森病院の優しい先生方やコメディカルの方に支えられて、とても楽しく充実した毎日をおすごしています。

わたしは4月からの2年間の研

### 笑顔大切に



修医生活は、「常に笑顔で取り組み、信頼される医師になる」ことを目標にしています。医師国家試験に合格したといっても、実際に

### 初期研修医一年目 鳴神 江莉

病院で働き始めると自分の知識不足・技術不足を目の当たりにし、大変だと感じることもたくさんあります。けれど、どんなときでも前向きに笑顔を絶やさずになりたいと思っています。そして、患者さんや、共に働く同期や指導して下さる先生、共に患者さんをチームとして支えていく多職種の方々に信頼される医師を目指して日々努力していきたいと思っています。

なるかみ えり

# 「第44回日本リハビリテーション医学会中国・四国地方会」 「第49回中国四国リハビリテーション医学研究会」を主催して



会長  
近森リハビリテーション病院 院長 和田 恵美子

12月1日高知大学にて「第44回日本リハビリテーション医学会中国・四国地方会」「第49回中国四国リハビリテーション医学研究会」を主催しました。

初めての大会長という大役で当日まで準備不足を心配していましたが、きびきび働く優秀なスタッフに助けられ、近森リハビリテーション病院開院30周年の記念日を無事に終わることができました。

教育講演では嚙下で有名な浜松市リハビリテーション病院院長の藤島一郎先生の専門外の職種まで引き込まれてしまう最新のトピックスを詰め込んだ講演と、今年の春から当

院の研究支援に関わってくれている畿央大学の森岡周教授の半側空間無視と歩行について、研究成果に基づく緻密な講演、またランチョンセミナーは毎年当院のポリオ検診にきてくれている西宮協立リハビリテーション病院の勝谷将史先生の地域での装具や連携の大切さについてと多彩な内容で行われました。

心配していた一般演題も39題集まり、219名という想定していたより多い参加者があって、用意していた参加者の名札がたりず、慌ててコピーに走るなどうれしい誤算もあり

ました。

午後から雨の予報でしたがなんとか天気もち、閉会間際まで活発な質疑応答があり盛況で終了しました。当院の卒業生が一般演題発表や参加でたくさんきてくれたので、まるで同窓会のように楽しむことができました。

終わってみればひととのつながりや近森リハビリテーション病院の歴史を感じる素敵な一日でした。

わだ えみこ



浜松市リハビリテーション病院  
病院長 藤島一郎先生



西宮協立リハビリテーション病院  
勝谷将史先生



畿央大学ニューロリハビリ  
テーション研究センター  
教授 森岡周先生



## ●施設認定●

近森病院が日本足の外科学会教育研修施設と、日本脳卒中学会一次脳卒中センターとして認定を受けました。

職員対象 第100回

チカモリ・シネマクラブ





## 自信と誇りを持って学会を主催できる幸せ

大会長

近森病院 循環器内科 主任部長

副院長 川井 和哉

### ARIA

大会長を拝命し、ARIA2019を福岡市で開催しました。ARIAは九州の先生方が立ち上げたライブデモンストレーション（実際のカテーテル治療を会場に中継し、議論しながら治療する）を中心とした学会で、5回目となります。私は初期の頃から中四国代表の理事としてかかわってきました。2017年には、当院から福岡市の会場にライブを中継しました。

ARIA2019は、「多様な力を結合する」をテーマに、若手医師の教育、最新の技術や話題、未来の医療など、産官学を巻き込み多彩なプログラムを組みました。カテーテル治療の専門医だけでなく、実地医家、基幹病院の医師や大学教授にも協力してい

ただきました。興味深いプログラムが同時に進行するため、「どの会場に行ったらいいか迷ってしまう」という嬉しい悲鳴を多く聞きました。

全国から過去最高の1,959人の参加があり、盛況のうちに閉会しました。最終日に当院から中継したライブは、安全で教育的なライブであったと多くの医師から高い評価をいただきました。当科の關秀一、西田幸司も術者を務めました。当院スタッフの力・レベルの高さを全国にアピールすることができました。

### 日本循環器学会四国地方会

2週間後に第115回日本循環器学会四国地方会の会長を務めました。働き方改革をテーマにダイバーシティシンポジウム、研修医教育セ

ミナーとして4県の専攻医対抗ドクターK、会場の意見を吸い上げるために導入した百人会議システムなど新しい企画が満載でした。当科の医師みんなで考えた企画に多くの参加者から賞賛の声をいただき大盛会でした。当院スタッフのパワー、アクティビティー、パッションを讃える声もたくさんいただき、誇りに思いました。

二つの学会を主催し、当院循環器内科の対外的評価の高さを改めて実感しました。大変光栄なことであり、これからも医療の未来を考えながら、スタッフと一緒に前進していきたいと思えます。

最後に参加者の皆様方、ご協力いただきました関係者の方々に心より御礼申し上げます。 かわい かずや

### ～ ARIA ～



▲近森病院カテ室（關医師）

▼福岡のライブ会場スクリーン（西田医師）



### ～日本循環器学会 四国地方会～



▲▼シンポジウムとドクターKはスマホを使い、会場からのコメントを随時集計、映写した（百人会議）

▲座長の佐田先生（右）と中岡医師



▼市民公開講座「心臓をまもる」四国4県の循環器内科のリーダーたちの講演には約80名の参加が

▲▼ドクターK、優勝は高知県チーム





# 近森会グループ2019年 MVP



	部門・職種	受賞者	受賞理由
チーム受賞	心不全チーム	久家由美、井上有紗、濱口富代、堀川史江、田中美和、岡林友季子、宮島功、谷口梨奈、萩野佑紀、松田有加、森塚亮太、前田秀博、橋田芳恵、溝淵彬人、三保木咲衣、中岡洋子、松田英之、小松洵也、佐藤麻理	職種の垣根を超えた活動で病院全体の心不全診療のレベル向上に貢献してくれています。今後、超急性期から慢性期、外来フォロー、緩和ケアまで更なる活動の広がりを期待しています。
	ひろっぱ講座 講師・事務局	萩原博、岡本充子、井上浩明、筒井由佳、大野直美、影山美佳、吉田妃佐、岡崎千沙	2018年9月に始まったひろっぱ講座では、様々な工夫を凝らした講義内容で楽しく学べる場として好評いただき、1年間で100回の開催実績となりました。代表で講師実施回数の多い職員（トップ5）と事務局を賞します。
	近森会グループ 看護師長会 承認ワーキング グループ	岡部美枝、野瀬美保、工藤淑恵、森本志保、中谷明未、岡村奈保、佐藤久美子、中西洋子、濱口富代、西村剛、山下ちぐさ、増井麻佳、矢口操、萩原博	互いに認め合う職場風土を目指し、Chikamori Good Nurseの取り組みや、承認行為の現状の調査、学会発表会など積極的な活動を行い、成果を出されたので、これを賞します。
	北館4階地域 包括ケア病棟	萩原順児他27名	何も無いところからの地域包括ケア病棟の立ち上げでしたが、今年度7月からは100%に近い稼働率です。また、自宅への退院に際し、きめ細やかなケアを行い、安心して地域へ復帰する支援に取り組まれました。
	企画課 ホームページ リニューアル 担当	大中崇、中澤章子、磯部早織、前野さくら	10年ぶりのグループ、近森病院のリニューアルは、患者目線で分かりやすい内容にすることを最優先に動画や写真を多用し、患者さんに伝える言葉遣いで表現するなど、訴求力の高いページへの更新となりました。緻密な画像処理や各部署との細やかな調整などの尽力に感謝します。
	抗菌薬適正使用 支援チーム (AST)	(代表) 高橋佐和	2018年から専従の薬剤師を中心としたASTが組織化され、主治医や病棟薬剤師、ICTと協力し、抗菌薬の適正使用を図るとともに、今年は抗菌薬の供給不足への対応においても多大な貢献を果たされました。
看護師 特定行為研修	川村佳代、西岡亜紀	4年目を迎えた今年度から栄養・血糖コースに加え、創傷コースを開講しました。研修責任者は、常に丁寧な指導で信頼も厚く、研修修了生のその後の成長にも目を向け、フォローアップしてくれています。事務局は、事務作業全般を迅速丁寧に行い、次年度より追加する各コースも短期間で申請され、高い能力を発揮しています。	



▼歯科 岸本智子先生



承認 WGチーム



初期研修医



北館 4階病棟



心不全チーム



▼笑顔で記念撮影



サプライズでの「変顔」ショーに会場は大盛り上がり！なんと役者は森田潔顧問でした。

	部門・職種	受賞者	受賞理由
個人	近森病院 循環器内科	菅根裕紀	他施設で学んだことを、近森病院でも実践できるようシステムを構築し、若手医師のロールモデルになり、周りをいつも明るくするムードメーカー的役割を担ってくれています。今後ますますの活躍を期待しています。
	近森病院 附属看護学校	上総満高	開校前年の設置準備から尽力され、開校後は第一期生から担任となり、学校運営・管理に係る重要な役割を確実に実行されてきました。更に未来に向かって飛躍する看護学校の基盤づくりに貢献していただくと期待しています。
	近森病院 歯科	岸本智子	歯科の開設において中心的な役割を果たし、周術期の口腔管理を通して、近森病院の医療の質を向上させる基盤づくりに尽力されました。医科歯科連携による超急性期病院の周術期の口腔管理のモデルを構築しつつあり、今後の活躍にも期待しています。
患者アンケートに名前が多かったスタッフ	近森病院 循環器内科	西田幸司	「いつも笑顔で接してくれて手術前、とても安心できた」「レベルが高く、人間的に最高です。長く診療を受けたい」といった感謝の声が多く寄せられました。
	近森病院 北館 3階 看護師	秋沢美保	「いつも笑っていて、悩みなんか吹き飛ばくらい面白い方でした」「患者への対応が一番良かったと思います」など、笑顔に癒された感謝の声が多く寄せられました。
	近森病院 総合心療センター 4階看護師	永尾三千	「自分の気持ちを話した時に受け止めてもらった安堵感がありました。素敵な看護師さんに出会えたなあと思いました」などあなたの患者の気持ちに寄り添った看護に感謝の声が多く寄せられました。
	近森病院 理学療法士	秀浦基生	「リハビリ中いろいろな話をしてくださり、絶えず笑顔で、今後の運動など積極的にアドバイスしていただき勇気づけられました」など、丁寧な説明で回復への希望が湧き、安心感を与えられた対応に感謝の声が多く寄せられました。
ハートセンター	近森病院 理学療法士	岡添祐也	心臓リハビリテーション指導士の取得、心リハ外来での活躍、近森学会誌への論文掲載、認定理学療法士（循環）資格の取得、心不全の再発予防への取り組みなど多くの功績を称え、これを賞します。
	医事課	岡村美和	医事課として循環器疾患の請求業務に優れた能力を発揮され、他部署とも連携して「算定漏れ」の改善に努められた功績を称え、これを賞します。

# 101歳、もうすぐ102歳。お元気です。

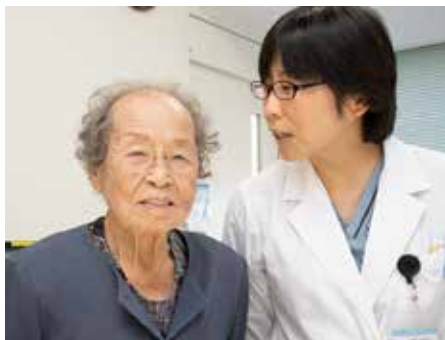
近森病院 消化器外科 部長 坪井 香保里

寺田八重子さん、101歳。2019年7月に近森病院で大腸癌に対しての手術を受けていただきました。

下血で内科を受診され、その後の精査で手術適応の病気が見つかり、手術治療に関して内科医師から相談を受けました。

ペースメーカー留置以外はとくに持病が無く、定期内服中の薬も無い元気な方、とのことでしたが、やはり101歳という高齢から、当初はご本人の状況次第では手術を行わないことも視野に入れておりました。しかし、ご本人とお会いし、ぜひ手術を受けていただきたいと思える方であることが感じられました。

杖無しですたすた歩いて来院され、認知面の問題も無くたいへん元



気な方でした。自転車に乗ったり畑仕事をしたり、短歌をつくって賞をもらったり、ひ孫さんの陸上の遠征にはいつも一緒に応援に行ったりと、単なる元気さだけで無く、いろいろな面で活動的に過ごされていました。

また、ご自身の病気についてもしっかり受け止めていただき、手術を受けることの不安はあるものの、手術にまつわるリスクについてもご理解

され、「まだやりたいことがあるのでよろしく。102になるおばあを手術する先生が大変や」とかえって気を遣っていただき、こちらも恐縮するばかりでした。

2019年7月17日に入院され7月18日に全身麻酔下に腹腔鏡補助下右結腸切除術、リンパ節郭清術を行いました。術後は大腸切除クリニカルパス通りに順調に経過し、予定通り術後7日目に自宅退院されました。

現在外来フォロー中です。手術前と同じように生活され、先日の外来受診時には先日朝日新聞賞を受賞された短歌を披露してくれました。

101歳、お正月を迎えたら102歳(1月3日生まれ)。お元気ですてきな女性です。 つばい かおり



▲退院後も元気で庭仕事をする八重子さん  
◀お孫さん夫婦とひ孫と愛犬たちに囲まれて

## リレー エッセイ

### 小学校行事

有限会社石原産業 佐藤 泰寛 氏



今年息子が一年生になり、いろいろな行事に参加しましたが驚くことも多くありました。私自身、市内の大人数の学校だったので親が準備・運営をしている印象がありませんでした。

最初の行事で、運動会があったのですがマスト登りの竹を保護者たちでお知り合いの方の山から伐採するところから始まりました。必要な長さに切り、全体にやすりがけをし、節をバーナーであぶったりし、子供

たちが安全に競技できるように、協力しながら完成させていきました。

また、PTAや町内活動も盛んで、ソフトボールやバレー・バトミントンなどもあり毎週練習をして、大会にも参加をして好成績を残しています。

保護者との交流も多くあり、子供たちもお兄ちゃん・お姉ちゃん達と一緒に遊ぶこともでき、とても楽しい時間をすごしています。

先日も、ソフトボールの町内PTA

大会があり、悪天候で試合ができるか不安でしたが何とか試合することができ、初めての参加で準優勝することができました。

年齢を重ねるごとに、運動する機会が少なくなってきていたので、継続して参加ができればいいかなと思いました。

さとう やすひろ

# 西安交通大学第一附属病院と 上海交通大学附属瑞金病院での学び

近森病院 ICU

シニア看護師長 山脇 寛子

▼前列右から2番目筆者



森田潔顧問、入江博之副院長、杉本健太郎麻酔部長代行に同行し、西安交通大学第一附属病院と上海交通大学附属瑞金病院を訪問してまいりました。共に、西安、上海の中心部に病院があり多くの外来患者で混雑していました。日本のようにかかりつけ医を持ち紹介状を持って大病院を受診するのではなく、軽い病気でも大病院にかかるため、多くの方が早朝から受診のため病院に並ぶそうです。患者さんたちが次々と病院入り口に入って行く様子は、さながらデパートのようにも見えます。

手術室とICUを見学させていただきましたが、大学の附属病院ということもあり、日本の病院とほとんど変わらない印象です。手術室で使用するマスクやキャップは大変質素なもので、覆布やガウンも使い捨てのものではなく再利用です。一方では物品を運ぶ自律搬送機の使用など、新しいシステムを取りいれている部分も多くあり、徹底的なコスト削減と効率化に重点を置いていることが分かりました。

ICUでは、必要な時期にしっかり栄養を入れて、早期離床を行なうこ

とで1日でも早く患者さんを回復に導くという基本的な考え方も、日本と共通です。また、看護師の人員配置や夜勤後の休息を48時間以上確保できるように考えられている部分など、国は違っても師長としての苦勞や悩みが共有できたことも大きな学びとなりました。

農村部では大病院も少なく、今回見学できた病院は中国の医療のごく一部ではありますが、ここ数年の中国の著しい近代化を感じさせる医療にふれることができました。

やまわき ひろこ

## 高知県 在宅医療連携研修事業

2019年12月4日



みなみの風診療所  
院長 今井稔也先生

## 在宅医療と病診連携

近森病院 地域医療連携センター  
看護師長 山本 詩帆

▶司会の塚田地域医療連携センター長  
▼前列左端筆者



高知県では、病院に勤務する医療関係者の在宅医療への理解を促進し、退院支援や急変時の受け入れにつなげるため、在宅医療の実態や望ましい連携のあり方等の研修が推進されています。当院でもこの度、上記のテーマで、今井先生に講演をしていただきました。

訪問看護師やヘルパー、ケアマネジャー等と連携しながら療養生活を支えている在宅医療の実際、また在宅医療でどこまでできるのか、在宅医が病院に紹介入院を考える状態や退院受け入れ可能な状態などについてお話していただきました。

医師25名を含む約60名の多職種の参加があり「こんな重度の方が在



宅療養していることに驚いた」という感想が多く聞かれ、様々な質問があり活発な意見交換ができました。

やまもと しほ

## 医療支援に行ってみて in Hutan Harapan

初期研修医一年目 梁瀬 瑛蘭

▼森田潔先生を含む医師4人のメンバーと訪問先のご家族で



### スマトラ島での医療支援

Bird Life International という NGO 団体が、インドネシアのスマトラ島で、HutanHarapan という熱帯雨林を保護しています。地域を守るということは、即ちそこに住む方々の健康も守るという使命があります。活動に賛同し参加している麻酔科の森田先生の10月の活動に同行しました。

スマトラ島ジャンビ空港から車で3時間程で HutanHarapan があり広大な原生林が見渡す限りにありました。

現地には 1,000 人ほどの森の住民がいて、医師の常駐はなく、月に1回、都心から派遣される内科医や歯科医の巡回診察があります。常駐看護師がたった2人で広大な森（東京都23区）の医療を担い、なかなか規模にあった医療が行き届かないとのことでした。

### 現地ならではの健康問題

聴診器、携帯型エコーなどを用い、新生児～70代位、そして妊婦さんと2日で計80人ほどを診察しました。高血圧症、慢性の関節症、皮膚病、腹痛、月経異常など色々な主訴がありま

した。

一番多かった症状は咳、鼻水、頭痛です。これは森林火災に伴い広範囲に慢性的に起きている、森林地域ならではの健康問題でした。私達にできることはマスクの配布とできるだけ煙を吸わないように伝えることでした。火災の背景には、原生林に放火してさら地にした後、お金になるパームやしやゴムの木を植えようとする人たちが後を絶たないことがあります。根本的に医療問題を解決しようとしても、個人の力では難しいこともあるとひしひしと感じました。

### 助けられる命が

また、印象に残っているのは血痰と体重減少がある60代の男性で、肺がんを疑ったのですが、精査をしようにも現地ではできないことがないため、X線などがある大病院に行くよう伝えることしかできませんでした。これに限らず、ちょっとした病気以外を診断、



治療をと思うと、車で数時間かけ大病院に行くしかなく、なかなか受診でき

なかつたり、緊急の際には間に合わなかつたりして、亡くなる方がいると伺いました。比べるものではありませんが、日本だと助けられる命でも現地では難しい場合があると思うともどかしい気持ちになりました。

### 長期的な積み重ねでできることも

2日間、現地の方々を診察して、何かできたかといわれると殆ど何もできなかった気がします。しかし、高血圧症は塩分を控える、煙はできるだけ吸わないようになど、ちょっとした健康教育はできたかと思えます。

森田先生は今後、団体を立ち上げてこの活動を続けていかれる予定です。一度ではできないことも長期的に積み重ねることでもできることもあります。また参加させていただいて活動の一端を担えればと思います。普段、病院にいたら「地球を守る」と考える機会はないので、医療支援という形ではありませんが、自然保護の現場も体験できてよかったです。医師だけでなく、いろんな目線から現地に行ってみただけならと思いますので、少しでもご興味を持たれた方は一緒に行けたら嬉しいです。

やなせ よんらん



▲赤ちゃんの性別(男の子)を伝えたら喜んでました

## お弁当拝見 78 栄養面も考えて楽しく



今年の4月に病棟から外来センターに異動になり、なるべくお弁当を作っていくようになりました。私は食べるのが大好きなので、お料理を作ることでも大好きです。

近森病院 外来センター  
看護師 主任 山本 靖代



身体は食べる物からできている、とよく聞く言葉を胸に、栄養面も考え毎日楽しみながら作っています。このサンドイッチは高校生の時に学校でパン屋さんが販売していたメニューで、大好きだったの



を思い出して時々作っています。切り込みを入れたバゲットにツナマヨネーズとレモンを挟むだけ。簡単で美味しいです。 やまもと やすよ

## 第 81 回日本臨床外科学会総会 研修医 Award

## 感謝

▼副賞の法被を着て



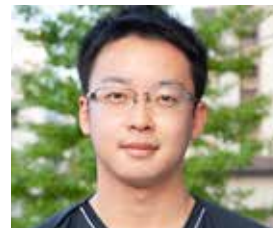
初期研修医一年目 鳴神 江莉

この度、11月14日から16日に開催された第81回日本臨床外科学会総会で「研修医Award」をいただきました。演題は、「右肝管が胆嚢管へ合流する胆道走行異常を伴った右肝管結石症の1例」で、4、5月の外科研修中に実際に関わらせていただいた患者さんの症例報告でした。近森病院の外科の先生方には、医師としてのスタートを切った時からお世話になっており、今回の発表にあたってはたくさん指導していただき、本当に感謝の限りです。これからも医師として成長していけるように日々精進していきたいと思っております。

なるかみ えり

## 日本感染症学会地方会、日本化学療法学会支部総会 研修医セッション (初期) 優秀研究発表

## 目的意識を持って



初期研修医一年目 三枝 寛理

第89回日本感染症学会西日本地方会学術集会／第62回日本感染症学会中日本地方会学術集会／第67回日本化学療法学会西日本支部総会の研修医セッションにおいて優秀賞をいただきました。

今回の発表・学会を通して、何を自分が伝えたいかを明確にすることの大切さを学びました。次回は、より良い発表を目的意識を持ってできるように励みます。

ご迷惑をおかけするとは思いますが、日々成長できるように努力しますので、今後ともよろしくお願い致します。

さえぐさ ひろよし

## 職員対象 インフルエンザワクチン接種を行いました

昨年に引き続き、インフルエンザワクチン接種を近森会グループの福利厚生、および近森会健保組合の保健事業の一環として行いました。



## 2月から高知市地域高齢者支援センターが変わります

北部地域高齢者支援センター  
えのくち出張所



南街・北街・江ノ口  
地域包括支援センター  
(高知市塩田町18-10  
保健福祉センター内)

## 私の趣味

## 美味しいお菓子とお茶に誘われて

臨床検査部 臨床検査技師 坂本 早樹



「今日茶道部があるんやけど、お菓子とお抹茶、飲み来ん？」入社一年目の私たちを先輩が誘って下さったのが、茶道を始めたきっかけでした。茶道なんて難しそう…などとは深く考えずに、珍しい和菓子を食べながら色々な話を聞くことが楽し



い、また行ってみよう、と通い始め、4年以上続けることができました。覚えの悪い私にも、何度でも優しく指南して下さいる先生や部員の皆さんのおかげで、楽しく茶道部に通い続けています。今では部活だけでなく、外部のお茶会や茶の湯関連のイベントに出かける楽しみもできました。

茶道ではお茶を飲むだけでなく、焼き物や茶花、着物、禅語や歴史についても学ぶことができます。「茶道とは渴きを医するに止まる」という言葉が気に入っています。茶道は

渴きを癒すためのものだ、渴きとは心の渴きや疲れのことでありそのような渴きを少しでも治してあげようという気持ちを込めてお茶を立てるものだ、という意味らしいです。難しい作法やルールを覚えなきゃいけないとは気構えずに、これからも楽しくお点前や知識を身に付けていこうと思います。ちょっとした気分転換したい方、美味しい和菓子とお抹茶を飲みながら茶道部にいらっしゃってみませんか。

さかもと さき

## 近森会グループ忘年会にて

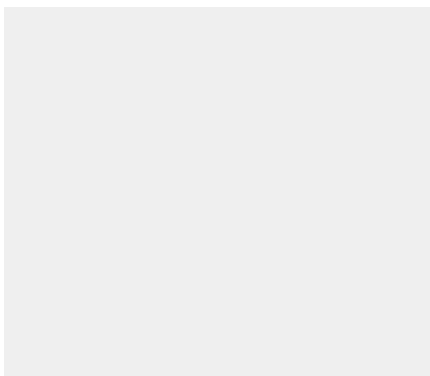
### ● 4 委員会合同川柳 表彰式 ●

今年度は医療安全委員会、感染対策委員会、褥瘡皮膚創傷管理委員会、災害対策委員会で募った川柳の表彰式を、忘年会にて行いました。  
受賞者の皆さん、おめでとうございます！

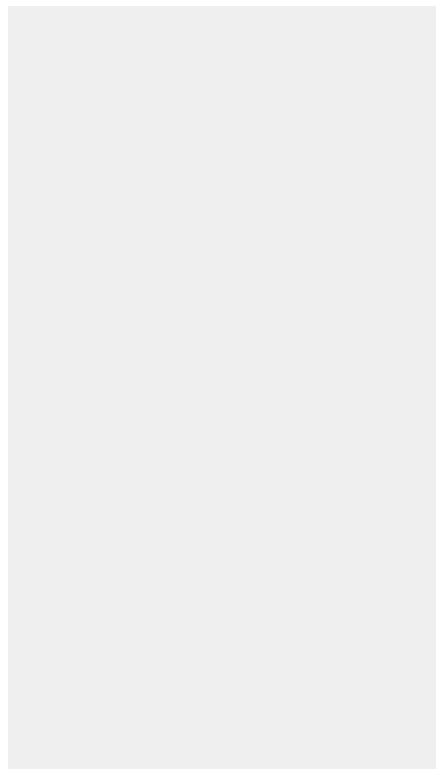
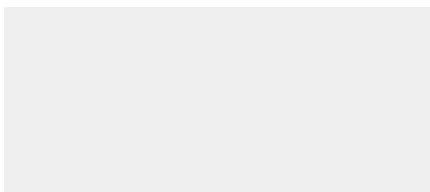


### ニューフェイス

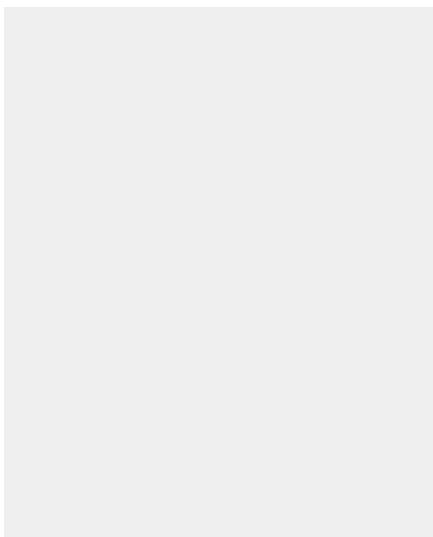
- ①所属②出身地③最終出身校
- ④自己アピールなど



### ● おめでとう ●



### ● 人の動き 敬称略 ●



#### 2019年11月の診療数 システム管理室

<b>近森会グループ</b>	
外来患者数	18,053 人
新入院患者数	954 人
退院患者数	936 人
<b>近森病院（急性期）</b>	
平均在院日数	13.93 日
地域医療支援病院紹介率	84.54 %
地域医療支援病院逆紹介率	344.33 %
救急車搬入件数	574 件
うち入院件数	313 件
手術件数	420 件
うち手術室実施	278 件
うち全身麻酔件数	189 件

● 2019年11月 県外出張件数 ●  
件数 74 件 延べ人数 157 名

### ● 編集室通信 ●

今年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。自国で開催される五輪を実際に見てみたい！長野冬季五輪時は、ハガキ・電話でチケット申し込みを行いました。今は、すべてインターネットからの申込に時代の変化を感じますが、スポーツからもらう感動は不変。熱い戦いを今から楽しみにしています。

(陽)

# 一定の着地点を一緒に見い出したい

## 竣工 600 年に思う

歴史が好きで、「歴史的建造物にところが落ち着く」という明希さんは、例えばドイツ連邦共和国ケルン市に聳えるケルン大聖堂などに癒やされるという。

▼「グイグイいく」感じではなくて…



完成まで 600 年、竣工結果が見えなくてもコツコツ関わり続けた当時の人々に思いを馳せ、いま相談業務の専門家として 10 年を過ごした日々と重ね合わせているようだ。

## 試行錯誤がやり甲斐に繋がる

着地点を見つけられずに悩み、ときに苦しむ患者さんと一緒に対応す



この冬の旅行で、ケルン大聖堂とクリスマスマーケットで買ったグリューワインのカップ

るなかで、A がダメなら B や C ではと、「色々試す試行錯誤の行為自体がやり甲斐に繋がり、そこに楽しみを見い出すことができる」ように感じている。

一般科に比べて、相談業務の結論自体を見つけにくい場合、ともすれば一緒に暗い淵に呑み込まれそうになりつつも、「小さな風穴は見つけ出せるはず」だと自分を勇気づけているのだ。

## 小さい頃から聞き役で

看護師の母親から医療関係への就職を勧められた高校時代、「あまり深く考えず社会福祉学部」を選んだ。「いつも聞き役が長女の私。学校でこんなことがあって〜と、自分が話し始める前に、弾丸トークの 2 歳下の弟、3 歳下の妹との三人で育ってきた」という経験が、学部選びに関係したのかも知れない。

そしていま、「自分に合っている仕事に巡り会えたという手応え」は掴んでいるという。医療福祉部の西本部長は、彼女の仕事への姿勢について、最近ぐっと熱が籠ってきたと感じている。「誰に言われるわけでもなく資格取得にむけて学校と仕事とを両立しているし、部の勉強会では精神科以外の SW にもわかりやすく伝えたいと努力しそれが形になってきている。最近の彼女は本当に頼もしい！」んだとか。

## 相談業務に必須の技術

いかにも「相手を受け容れたいです」といった表情の穏やかさは、当事者にもご家族にも安心感を与えるのだろう。ただし、内心はいつも余裕いっぱいというわけにもいかない。

A も B も C でさえ、うまくいかないこともある。それでも、自分に余裕がないと相手を受け容れる「幅」は生まれないと感じているから、「なんとかこのころの余裕を持てるよう頑張っているつもり」。それが、例えば休日のアクション映画の鑑賞や外食、あるいは明希風創作料理に「没頭する」ことである。没頭できるよう自分に言い聞かせるのだ。

仕事で内向きに傾きがちな「ころ」を、外へ向けて広げることも精神科業務に携わる職種には、きっと必須の技術なのだろう。

## 中堅ワーカー、当面の目標

自己否定感の強さや、いい子で自分を主張できずストレスの吐け口を見つけれられないような患者さんに対して、「好きなものを一緒に探したいと声をかけたり、強すぎない刺激をちょこちょこ与えること」を意識する。できるなら、患者さんと共同で一定の着地点を見つけれたいのだ。

精神に障がいがあるからといって、常に病的なわけではないが、その不安定さゆえに医療専門職であっても、ときに対応の難しさを感じることもあるようだ。そういった一般には分かりにくいであろう精神世界との交信を、なるべく自然体で臨めるようにと心がけてもいる。

町の服屋さんに入ったとき。「グイグイ来られるとなんだか怖いけれど、全く知らんぷりされるのは物足りないし淋しい。だから、相手に負担をかけないように気には掛けておいてほしいと思う」。まさしく、そういった距離感を、患者さんと自分の間でも自然体で取れるようになるのが、中堅ワーカーの当面の努力目標といえそうだ。

# 志高き管理栄養士が高知に集結

当番幹事  
臨床栄養部 部長代理 宮島 功



▼会長講演



▼NST 教育カンファレンスを模擬で



▼栄養補助食品の展示



11月16日(土)、17日(日)に、近森病院においてJMDS2019in 高知が開催されました。JMDSは、Japan Medical Dietitian Societyの略で、管理栄養士が中心となり臨床研究および臨床業務について、学び、語り合い、交流する研究会です。今年は全国より106名の参加者が高知に集まり2日間の熱いディスカッションが繰り広げられました。

今年のメインテーマを「アウトカムが出せる管理栄養士になるために」

とし、一般演題は9施設より20演題の応募があり、その他にシンポジウム、特別講演、会長講演を企画しました。

特別講演では、近森正幸理事長に当院のNST教育カンファレンスを再現していただきました。2時間のカンファレンスがあっという間に終了し、参加者の皆さんに大変好評で、急遽病院見学を希望される方もいらっしゃいました。

元近森病院職員の方や NST3 カ月

研修および長期研修の修了生、以前当院に見学に来ていただいた方々など、懐かしい仲間にも再会することができ、一般演題では活発なディスカッションがなされ、充実した2日間でした。来年は、新潟での開催を予定しております。

管理栄養士がアウトカムを出せる職種になるために、今後も日々邁進してまいります。

みやじま いさお

